

## 【報告事項 1.】 平成 28 年度事業報告の件

平成 28 年度の事業計画で示した通り、例年行われている調査研究事業や、小動物地域獣医療の充実、狂犬病等の人と動物の共通感染症の都民生活への発生予防・まん延防止、学校飼育動物を通じて都民への動物愛護精神啓発と児童の健全育成を支援、動物の適正飼養に関する知識の普及啓発、家畜衛生対策による家畜畜産物の都民の食の安全の確保、動物のいのち救済基金等を活用した動物福祉の向上、人と動物のより良い共生社会の構築、介助動物の保健衛生の向上及びその普及啓発、災害時の動物支援対策、小笠原諸島や御蔵島などの希少種や繁殖地の保護保全、傷病野生鳥獣の保護治療ならびに調査、生命倫理の高揚を図るなどの公益事業に取り組んできた。

本会危機管理セクションの活動として、平成 28 年 4 月に発生した熊本地震において、県外避難者飼育動物の受け入れ準備が即座に実行されたこと、平成 29 年 2 月に東京都内で確認された野鳥における高病原性鳥インフルエンザ発生において、会員病院に対する緊急情報提供と、教育庁を通じた学校飼育動物の取扱いに関する情報を発信ができたことなど、緊急事態に対し速やかな対応を行うことができたのは、安否確認訓練を含む平時の取り組みが結実してきたと考えられる。

また、平成 29 年度に本会が開催担当となって実施する関東・東京合同地区獣医師大会開催計画の立案においては、会員、賛助会員と一緒に作り上げる学会をめざし、支部から選出された運営委員や賛助会員有志との合同会議を重ね、東京スタイルでの開催を計画してきた。

これに続く平成 31 年度開催の FASAVA 東京大会は日本臨床獣医学フォーラム（JVBP）と共働し、FASAVA 本部と連携を図りつつ準備を進めている。

また平成 32 年に開催される東京オリンピック（パラリンピック）については、「人と動物とがともに幸せに暮らせる街東京」を世界に示す機会として、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に対し、2020 パラリンピック入場行進にサポートドッグの同伴と本会によるサポートを提案した。

本会が推し進める HATT 構想の実現については、動物業界のみならず、様々な分野・業種が一致協力した取り組みとなるよう、関係機関、賛助会員、東獣サポーターとのミーティングを行い連携を図った。

平成 28 年 11 月に北九州で開催された「第 2 回世界獣医師会-世界医師会 “One Health” に関する国際会議」で謳われた「福岡宣言」のとおり、本会においても「One Health」の概念に基づき行動、実践するために、平成 29 年度事業として東京都医師会との合同シンポジウムを計画し、その準備を進めてきた。

本会会員に対しては、SNS を用いた家族（スタッフ）の安否確認システムの導入や、賛助会員の協力による本会会員特典として、勤務スタッフも含めた健康診断割引、病院の福利厚生システムの一助となる会員制度の紹介と会費割引の提供、会員の車輛購入に際しての割引サービス提供、会員家族のケアも見据えた高齢者福祉施設の紹介と割引適用、会員個人の生活や病院運営の一助となる特典提供を行った。

# I 会 務 報 告

## 1. 役職員等の人事

### (1) 東京都庁関係：

小松泰史副会長：東京都動物愛護管理審議会副会長（H28年2月～H30年1月）

天野芳二副会長：東京都動物愛護推進協議会委員（H28年8月～H30年2月）

高橋恒彦理事：東京都外来鳥獣（アライグマ・ハクビシン）防除対策検討委員  
（H27年6月～H29年5月）

高橋恒彦理事：東京都自然環境保全審議会委員（H28年3月～H29年5月）

### (2) 日本獣医師会関係：

村中志朗会長：日本獣医師会副会長

小松泰史副会長：東京地区代表理事（H27年7月～任期2年）

小松泰史副会長：動物感謝デー 実行委員（H27年7月～任期2年）

小松泰史副会長：マイクロチップ普及推進特別委員会委員（H27年7月～任期2年）

天野芳二副会長：職域総務部会総務委員（H27年7月～任期2年）

中川清志理事：動物福祉・適正管理対策委員会小委員会 学校動物飼育支援対策検討委員会（H27年7月～H29年6月）

### (3) 株式会社損害保険ジャパン（日獣保険事業）関係：

小松泰史副会長：獣医師賠償責任保険中央審議会委員（H28年7月～任期1年）

### (4) オリンピック関係：

村中志朗会長：一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会顧問（H26年6月～）

### (5) 関東・東京地区合同獣医師連合会関係：

村中志朗会長：東京地区代表理事（H28年4月～任期1年）

小松泰史副会長：監事（H28年4月～任期1年）

### (6) 本会役員関係：平成28年度の役員改正に伴う本会役員構成（H28年6月～任期2年）

村中志朗（代表理事・会長）

小松泰史（第一副会長）

天野芳二（第二副会長）

小林元郎（業務執行理事）

上野弘道（業務執行理事）

大久保忠宜（理事）

郷野 栞（理事）

高橋恒彦（理事）

中川清志（理事）

平田哲也（理事）

安田辰巳（理事）

香西解夫（監事）

寺澤はるか（外部監事）

### (7) その他：

村中志朗会長：一社）日本小動物獣医師会顧問（H28年5月～任期2年）

## 2. 本会の活動状況

### (1) 会議、委員会の開催状況：

会務を円滑に運営するため、定款に定める会議並びに本年度に設置した委員会等の開催状況は次のとおりである。

- ア. 定時総会：第5回 6/19
- イ. 定例理事会：第1回 5/19、第2回 7/13、第3回 9/30、第4回 12/22、第5回 3/14
- ウ. 臨時理事会：第1回 6/19
- エ. 監査会：第1回<H27 全期決算監査>5/11、第2回中間監査会 11/21
- オ. 会務運営会議：第1回 5/9、第2回 11/14
- カ. 業務執行理事打合せ：第1回 6/21、第2回 8/18、第3回 10/18、第4回 11/14、第5回 1/17、第6回 2/22
- キ. 地域職域合同支部長会：第1回 6/9(日獣会議室)、第2回 2/22(日獣会議室)
- ク. 倫理委員会：第1回 7/20
- ケ. 役員候補者選任委員会：
- コ. 共生社会構築委員会：第1回 4/6、第2回 5/18、第3回 6/29、第4回 8/31、第5回 10/19、第6回 12/21、第7回 2/1、第8回 3/7
- サ. 産業動物委員会：第1回 2/15
- シ. 獣医公衆衛生委員会：第1回 3/14
- ス. 危機管理・防災関係：第1回防災ブロック長会議 7/20
- セ. 広報委員会：第1回 4/21、第2回 6/28、第3回 9/1、第4回 9/29、第5回 10/21、第6回 11/28、第7回 12/13、第8回 1/31、第9回 3/6
- ソ. 東京地区三学会幹事会 第1回 5/16
- タ. 表彰審査委員会 第1回 5/16 持ち回り 4/4、第2回 8/30、持ち回り 9/14
- チ. 感染症対策マニュアル作成委員会 第1回 9/6、第2回 12/7、第3回 1/17、第4回 2/17
- ツ. 都委託医療事故防止・対策委員会 第1回 9/13、第2回 11/22、第3回 2/10
- テ. 都補助事業運営委員会 第1回 9/14、第2回 9/30、第3回 10/10、第4回 11/16
- ト. 災害マニュアル検討委員会 第1回 10/4、第2回 3/13
- ナ. 夜間診療ワーキンググループ 第1回 12/14、第2回 2/28
- ニ. 狂犬病予防対策ワーキンググループ 第1回 9/16、第2回 11/7、第3回 12/5
- ヌ. 小学校動物飼育推進校事業WG 第1回 10/11、第2回 3/22
- ネ. 自然環境保全活動WG 第1回 10/14、第2回 12/15、第3回 2/16
- ノ. 防災担当者会議 11/29、30
- ハ. 関獣連運営会議関連 8/24(担当者会議)、9/8(東京幹事会)、9/11(会場視察)、9/15(都市センターホテル打合せ)、10/10(関獣連東京大会・学会運営実行委員会)、12/21 関獣連企画ミーティング、2/5(関獣連理事会・監査会)
- ヒ. 東獣賛助会員ミーティング 9/20、H29 3/9
- フ. 東獣サポーターミーティング H29 3/22
- ヘ. 支部会計担当者会議 9/8

(2) その他関係機関、他団体などの会議、委員会等の活動状況：

- ア. 公益認定申請関係：平成 27 年度事業報告及び決算報告の電子申請（6/30）、平成 29 年度事業計画及び予算計画の電子申請（3/31）
- イ. 都庁関係：H28 東京都動物愛護推進員委嘱状交付式への出席（5/10）、東京都動物由来感染症検討会への委員派遣（6/22・3/8）、補助犬「身体障がい者支援活動事業」診療券の贈呈（H28 分 6/10・H29 分 3/20）、補助犬「身体障がい者支援活動事業」感謝状の受領（9/13）危機管理に関する事業者（指定公共機関）セミナー参加（10/20）、飼育動物診療施設開設者講習会への参加と講師派遣（小林元郎 業務執行理事・平井潤子 事務局長）（3/7・3/15）、東京都動物愛護推進協議会への出席（3/7）、H28 東京都委託獣医師育成講座事業の受託、H28 東京都補助獣医公衆衛生学術振興事業の受託、H28 東京都委託動物病院における動物由来感染症モニタリング事業受託、H28 傷病野生鳥獣の保護治療等事業受託、H28 ノネコ搬送に伴う感染症対策等事業受託、H28 小学校動物飼育推進校事業受託、H29 予算編成に関するヒヤリングのための小池都知事との面談（12/14. 1/23）※ 等

※小池都知事に対する HATT 構想に関するプレゼンテーションについて

かねてより本会が提唱してきた「HATT」（Happy Animal Together Tokyo）について、HATT 実現の意義と、東京都動物愛護センター移転改築に際しての提案も含め、プレゼンテーションを行った。

<HATT の 5 つの目的>

- ・動物愛護精神の普及啓発
- ・殺処分頭数を限りなく 0 に近づけるための譲渡促進
- ・高齢者の動物飼育支援と動物飼育による健康寿命の延伸
- ・災害時の動物救護対応
- ・東京都ハルスプランの推進 等

これらの活動拠点機能を有する複合施設を、2020 年東京五輪・パラリンピックを目途に設置し、東京(日本) オリジナルの動物福祉を基盤とした人と動物との共生環境を実現していく旨を提案した。

- ウ. 日獣関係；第 73 回通常総会 6/22、全国獣医師会事務・事業推進会議 7/8、2016 動物感謝デー in JAPAN WORLD Veterinary Day（北九州市）11/12、第 2 回世界獣医師会-世界医師会” One Health” に関する国際会議 11/10-11、平成 28 年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（石川）2/24～2/26、日獣委託小動物臨床講習会「咬傷犬狂犬病検診に関するワークショップ～狂犬病臨床診断の第一歩～」 H29/3/5
- エ. 関獣連関係；理事会・学会幹事会：第 1 回（川崎）4/10、第 2 回（川崎）7/10、第 3 回（川崎）2/5 監査会 2/5、関獣連大会・学会 9/11（ホテル KSP・川崎）  
関東地区獣医師会連合会及び東京都獣医師会間における災害時相互協力に関する協定書締結（4/1）、関東地区獣医師会連合会及び東京都獣医師会間における災害時相互協力に関する協定細目締結（4/1）、関東地区獣医師会連合会及び東京都獣医師会の連携・相互協力に関する覚書締結（4/1）

- ・H29 年度開催にむけて関獣連東京大会・学会運営実行委員第 1 回合同会議開催 10/10
- ・H28 大会スローガン：東京都獣医師会「高齢者が安心して動物飼育ができる社会システムを構築しよう。」
- 大会スローガン「災害時における獣医師会の救護体制を確立しよう」
- 大会宣言「災害時における獣医師会の救護体制の確立を図る」
- ・H28 獣医時功績者及び特別功労者推薦：山中瑛介（中野支部）、杉本恵子（江戸川支部）、高村保郎（多摩西支部）、中馬 寛（大田支部）、宍戸義雄（武蔵野三鷹支部）、青山 隆（北支部）、諸星康雄（生物医学支部）
- ・H28 年度は小動物獣医学会において、東京都獣医師会所属 樋爪裕美氏（AC プラザ荻谷動物病院 明治通り病院）による「犬膝特異的リパーゼ（Spec-cPL）により診断した犬の膝炎の 43 例」が地区学会賞を受賞した。
- ・関東・東京合同地区獣医師会災害動物対策会議 講師派遣 1/22
- オ. 政令指定都市獣医連絡協議会：第 1 回 6/26、第 2 回 11/27
- カ. 他府県獣医師会：埼玉県獣医師会総会 6/8、山梨県獣医師会 公衆衛生獣医師協議会研修会講師派遣 3/3、横浜市獣医師会 研修会講師派遣 3/24
- 熊本地震発生に伴う熊本県獣医師会支援活動 4/19～
  - 1) 被災地獣医師会支援
    - ①発災後の初動資金として、本会が有する「災害時の動物救護に供する保管資産」から 100 万円を送金した。
    - ②本会支部及び賛助会員に対し、日本獣医師会を通じて被災地獣医師会に送金及び被災動物無料診療券事業等に充当する支援金を募集した。  
結果、5 月 19 日時点で 57 件（総額 1,459,691 円）の募金が集まった。
  - 2) 被災動物及び飼育者支援
 

本会会員病院に対し、熊本地震の被災により県外に避難している被災者が同行したペットを一時預かりする目的で、支部を通じアンケート調査を実施した。その結果、125 の病院で小型犬 155 頭、中型犬 42 頭、大型犬 11 頭、猫 163 頭、合計 371 頭の預かりの申し出を受け、その内容を本会ホームページ上で周知した。
  - 3) 人材派遣
 

日本獣医師会の要請により、被災地の調査及び獣医師会の業務をサポートする目的で 4 月 19 日～5 月 6 日の期間、本会から人材派遣を行った。
- キ. 中央畜産会：H28 年度定時総会（6/22）、H28 地方会員活動支援推進事業に係る全国会議 6/22 への参加
- ク. その他：関東しゃくなげ会 第 37 回獣医師技術研修会（総会）共催開催（6/17）  
狂犬病臨床研究会 10 周年記念式典への参加 9/25
- (3) 国際交流関係：2016FASAVA Malaysian 大会クアラルンプール、第 20 回日本臨床獣医学フォーラム年次大会でのロビー活動 9/23-25、(一社)FASAVA-Tokyo 2019 理事会 第 1 回 5/12、第 2 回 H29 2/21、組織運営員会第 1 回 4/12、第 2 回 5/12、第 3 回 9/26、第 4 回 H29 2/21、H29 FASAVA オーストラリア大会参加者募集を開始した。

### 3. 催事、学術集会等の実施状況

ア. 学会、講習会等：事業実施報告参照

イ. 支部学術講習会の計画等：※日獣生涯研修申請分

- ・三支部（練馬・板橋・豊島）メリアルジャパン合同学術講習会「ACE阻害剤（ACEI）を見直す」10/2
- ・北多摩支部講習会「臨床病理」11/1、H29 1/18
- ・品川・大田・東京中央支部合同学術講習会「一般臨床における白内障・緑内障」11/13
- ・世田谷支部「難抜歯に対する治療のコツ」H29 2/7

### 4. 本会が後援したイベント・キャンペーン等

#### 【後援】

- ・第20回日本臨床獣医学フォーラム年次大会2016 9/23-25
- ・第152回JAHA国際セミナー「最先端の腫瘍外科学“その背景から実際の手技まで”」8/30-9/1
- ・第153回JAHA国際セミナー「異常な前肢への戦略術～難解な病来へ最前線の知識を得る～」10/20-21
- ・第154回JAHA国際セミナー「血液関連腫瘍と最新の腫瘍免疫学」12/12-14
- ・第155回JAHA国際セミナー「神経病学」後援1/16-17（天満研修センター）、1/23-24
- ・第156回JAHA国際セミナー「重複疾患症例の診断法および検査におけるグレーゾーンの解釈」3/11-12
- ・H28JAHA年次大会東京ミーティング「Human animal Bond for One Health: どうぶつとともに素晴らしい生活を！」10/15-16
- ・全国学校飼育動物研究会「第18回全国学校飼育動物研究大会」8/28
- ・ちよだ猫まつり実行委員会「ちよだ猫まつり2017」（千代田区役所）H29 2/18
- ・学校法人ヤマザキ学園「創立50周年事業」南大沢キャンパス3号館竣工記念講演5/14
- ・一社）ペットフード協会「インターペット2016」3/31-4/3
- ・FCI ジャパンインターナショナルドッグショー 2016 4/2-4/3
- ・狂犬病臨床研究会「世界狂犬病デー2016 シンポジウム～WRD2016 in Japan～」9/25
- ・一社）日本獣医麻酔外科学会「軟部外科ラウンド 2016 ～Meet the Experts～」11/6、第8回整形外科シンポジウム「トイ犬種の橈尺骨骨折に挑む！プレート固定法の最前線」H29 2/5「麻酔って危ないの？～麻酔・鎮痛法の今を再学習～」H29 3/12
- ・特定非営利活動法人動物愛護社会化推進協会 2016年第18回公開シンポジウム「ペットと子ども」10/23

#### 【共催】

- ・災害動物医療研究会認定VMAT講習会 H29 2/11、12

#### 【協賛】

- ・特定非営利活動法人野生動物救護獣医師協会「ヒナを拾わないで」キャンペーン H28.4月-H29.3月
- ・ペットとの共生推進協議会「第5回ペットとの共生推進協議会シンポジウム」11/13

#### 【協力】

- ・「災害動物医療体制の確立による人と動物が共存できる地域の創造」プロジェクト H26.10月-H29.10月 日本獣医生命科学大学（災害動物医療研究会）
- ・日本獣医生命科学大学研究事業「加齢性動物疾病の先制医療拠点の構築」プロジェクトへの協力

## 5. 規定の改廃等

- ア. 東京都獣医師会狂注事業要綱一部改訂（5/19 第1回理事会）
- イ. 身体障がい者支援活動事業要綱一部改訂（9/30 第3回理事会）
- ウ. 表彰規程一部改正（9/30 第3回理事会）
- エ. 定款施行細則一部改訂（12/22 第4回理事会）
- オ. 東獣ジャーナル編集委員会規程・東獣ジャーナル編集規程（3/14 第5回理事会）
- カ. 東獣ジャーナル広告料金表の一部改訂（3/14 第5回理事会）

## 6. 表彰等

本会理事として長年に亘り会務に貢献され、特に学校飼育動物の分野で功績を残された中川美穂子先生（故人）に対し、日本獣医師会会長感謝状と東京都獣医師会会長特別感謝状が授与された。

また東獣16「イヤーズカンファレンスにおいて、下記の20名に会長表彰と、熊本震災における動物救護に関して貢献された株式会社クレディセゾンに対し感謝状が授与された。

### 受賞対象：A会員

山口 勝（多摩東支部）	古藤田博克（渋谷支部）
松本 孝幸（世田谷支部）	笠井 千石（江東支部）
天野 三幸（杉並支部）	藤沢 太城（中野支部）
藤原 定行（武蔵野三鷹支部）	永井 秀和（北支部）
渡辺 峰久（北支部）	遠矢 東五（北多摩支部）
浜田 正人（北多摩支部）	佐藤 清二（目黒支部）
川瀬 清（世田谷支部）	

### 受賞対象：B会員

五島 昇（江戸川支部）	高木 茂美（中央競馬会支部）
浅沼 博文（中央支部）	池田 忠生（生物医学支部）
阿部 英雄（動物薬事支部）	朝日 光久（橄欖支部）
筒井 敏彦（日本獣医生命科学大学支部）	

この他、平成28年度第5回総会において、東獣ジャーナル編集印刷において永年の貢献をいただいた有限会社ピーシーエム代表取締役社長石井治身氏と、長きにわたりかんらん支部長を務められた足達卓治先生、本会動物愛護事業『動物のいのち救済基金』に貢献いただいた Hula Halau O Makanani 蜂須賀栄美氏、Na Liko O Ka Lehua Kea 芥

川美佳氏、Na Lei O Na Kai Ewalu 窪川京子氏に、世田谷フラフェスティバルにおいて参加フラ教室の講師に感謝状が授与された。

## 7. その他

### (1) 組織率の向上

- 1) 東獣 16 ‘イヤーズカンファレンス 10/10 (月・祝) 開催後に懇親会を開催し、執行部と会員、賛助会員とが近しく意見交換を行う場を提供し組織充実に努めた。
- 2) 会員へのタイムリーな情報提供と情報収集のツールとして、東獣会員専用サイトを構築し、各種割引制度、福利厚生制度等会員特典情報を提供した。
- 3) 敬老の日を祝して、対象会員に対してお祝い品 (Quo カード) を贈呈した。
- 4) 本会案内パンフをもって広報すると共に、他の関連組織への訪問や講習会等への参加を勧誘して加入促進に努めている

### (2) 収益事業

- 1) 「インターペット 2016」企画「犬猫ペット健康相談所」、「キッズ獣医師体験ブース」と、ジャパンケネルクラブ「ジャパンドッグフェスティバル 2016」企画の「犬猫ペット健康相談所」に獣医師を派遣した。
- 2) 本会作成の印刷物 (カレンダー・証明書等) を頒布した。
- 3) 保険加入斡旋などの事務手続きによる収入を得た。



## 8. 本会組織の会員状況

平成28年度末会員数は、A会員名675名、B会員475名、計1,150名である。  
 年度内の入会は70名、退会51名（逝去11名含）、長寿会員65名のうち、会費免除高齢会員63名であった。（会員の内訳は表参照）

地域 支部	A会員			B会員			計		
	28年度 会員数	27年度 会員数	差異	28年度 会員数	27年度 会員数	差異	28年度 会員数	27年度 会員数	差異
中央	25	23	2	14	11	3	39	34	5
文京	17	17	0	6	6	0	23	23	0
新宿	17	19	△2	4	4	0	21	23	△2
中野	18	19	△1	1	1	0	19	20	△1
杉並	38	39	△1	14	11	3	52	50	2
世田谷	60	60	0	33	28	5	93	88	5
渋谷	9	9	0	2	2	0	11	11	0
目黒	27	27	0	6	6	0	33	33	0
大田	45	42	3	16	18	△2	61	60	1
品川	19	18	1	5	5	0	24	23	1
勝島	13	13	0	0	0	0	13	13	0
江東	21	20	1	3	1	2	24	21	3
墨田	19	19	0	1	2	△1	20	21	△1
城北	18	17	1	1	2	△1	19	19	0
葛飾	19	19	0	1	2	△1	20	21	△1
江戸川	25	25	0	8	9	△1	33	34	△1
足立	21	24	△3	0	0	0	21	24	△3
北	17	17	0	0	1	△1	17	18	△1
豊島	15	15	0	2	2	0	17	17	0
板橋	20	21	△1	4	4	0	24	25	△1
練馬	36	40	△4	16	16	0	52	56	△4
武蔵野三鷹	17	18	△1	2	1	1	19	19	0
北多摩	34	36	△2	4	5	△1	38	41	△3
多摩東	24	25	△1	5	5	0	29	30	△1
南多摩	16	14	2	5	4	1	21	18	3
八王子	21	20	1	0	0	0	21	20	1
町田	21	21	0	0	1	△1	21	22	△1
多摩西	43	43	0	3	3	0	46	46	0
小計	675	680	△5	156	150	6	831	830	1

職域 支部	B会員		
	28年度 会員数	27年度 会員数	差異
農水省	3	5	△2
動薬検	0	0	0
都産労	10	12	△2
都公衆衛生	29	32	△3
東大	17	17	0
農工大	17	17	0
日獣大	34	32	2
生物医学	27	29	△2
日生研	7	8	△1
松研	2	3	△1
中央競馬	3	5	△2
都共済	12	14	△2
動物薬事	36	37	△1
かんらん	122	107	15
小計	319	318	1

東京都獣医師会総会員数			
	28年度	27年度	差異
総計	1150	1148	2

## II 事業実施報告

### I. 公益目的事業

#### 1. 都民公開シンポジウム開催事業

東京都医師会と東京都獣医師会との学術協定締結に伴い計画した共催シンポジウム（下記詳細）について東京都医師会との検討を進めた。

##### 【共催シンポジウム内容（案）】

日 時：平成 29 年 11 月 11 日（土）15：00～

場 所：東京都医師会館 2 階ホール（千代田区神田駿河台 2-5）

テーマ：「動物飼育による高齢者の健康寿命の延伸（地域包括ケア）」

講 師：レベッカ・ジョンソン氏（Rebecca Johnson）

ミズーリ大学 人と動物との相互作用研究センター所長

ヒトと動物の関係に関する国際組織 IAHAIO 元会長

対 象：医師、獣医師、看護師、動物看護師 等

#### 2. 狂犬病予防対策推進事業

昨年に引き続き、狂犬病予防法に基づき狂犬病予防注射事業を実施した。平成28年度においては93,520頭の実績となった。

平成28年度の区市町村動物関係業務担当幹事長との情報交換会に出席（8/25）。

台東区（特別区生活衛生課長会幹事区）、豊島区（特別区生活衛生課長回復幹事区）、品川区（特別区動物管理担当社会幹事区）、狛江市（市町村狂犬病予防・どうぶつ愛護管理事務主管担当者会議幹事市）、東京都担当課長等の参加の下、消費税10%への値上げを視野に、狂犬病予防接種事業に関する情報交換を行った。

また、狂犬病予防に対する知識の普及・啓発事業を推進し、狂犬病の発生及びまん延、拡大の阻止を図り、都民の生命と財産の安全を確保することで公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に努めるために以下の事業を行った。

##### 2-ア. 都民に対する狂犬病に関しての情報提供と周知；

平成 26 年度に制作した本会監修の動画「東京を守ろう」を引き続きインターネット上で公開し、狂犬病予防注射の必要性に対する啓発活動を継続して実施した。

##### 2-イ. 犬の飼育者に対する狂犬病予防の啓発及び適正な飼育指導；

勝島支部を除く27地域支部の動物診療施設において狂犬病に関するポスター、リーフレット等を活用して犬の飼育者に対し狂犬病予防を啓発するとともに、咬傷事故防止のための適正飼育を指導し、狂犬病予防法の法令遵守とその重要性を周知するなど、年間を通じ地域支部による地元に着した啓発活動に取り組んだ。

## 2-ウ. 獣医師に対する知識及び診断技術の周知並びに情報提供；

狂犬病に対する意識向上、狂犬病の臨床診断能力の向上、並びに狂犬病に関連する法規の再確認を行うため、獣医師を対象に講習会及び会議を開催した。

平成28年度日本獣医師会小動物臨床講習会においては、都内病院で狂犬病が疑われる犬が確認された際の対応と行動を、ワークショップ形式で具体的にシミュレーションする企画としたことが、参加開業獣医師（内非会員3名）に対し、狂犬病発生時対応の重要性について真摯に考える動機付けとなった。この成果を地域に持ち帰ることで、有事に備えての対策検討の一助となることが期待できる。

### 《平成28年度獣医日本獣医師会小動物臨床講習会》

日時：平成29年3月5日（日）15:00～18:00

場所：フォーラムエイト

参加人数：69名（本会会員64名、賛助会員2名、非会員3名）

講習演題名と内容：

「咬傷犬狂犬病検診に関するワークショップ～狂犬病臨床診断の第一歩～」

咬傷犬診断に関して理解を深める

- ・観察中の異常を検出し、狂犬病を疑う
- ・異常があった場合の届出について理解する

想定付与：

咬傷犬診断開始後、数日して、異常があったと連絡が入る

論点提供：井上智先生（国立感染症研究所獣医科学部第二室長）

### 《平成28年度支部担当者会議》

日時：平成29年3月5日（日）14:00～14:45

場所：フォーラムエイト

参加人数：41名

対象者：各開業支部狂犬病担当者

内容：平成28年度狂犬病集合注射実態調査報告

平成28年度狂犬病抗体価調査報告

注射時期の延期及び集合注射問診票について 等

また、東獣16「イヤーズカンファレンス10/10（月・祝）にて実施された、都補助事業による獣医公衆衛生学術講習会において「狂犬病発生時対応ワークショップ」を開催し、82名の参加を得て狂犬病が疑われる状況が発生した際の対応について、具体的にシミュレーションした。このワークショップでの成果を反映し狂犬病発生時対応マニュアルを改定した。

狂犬病発生時対応マニュアルはジャーナルNo.578に掲載し、改定版は平成29年狂犬病予防接種普及啓発ポスターとともに会員に送付するなどして、会員への周知を図った。

## 2-エ. 狂犬病予防注射接種率と登録率の向上促進；

27の地域支部において、狂犬病予防定期集合注射の安定的な実施及び注射済票交付を実施し、狂犬病予防注射の接種率向上に努めるとともに、法による犬の登録の受付を代行するなどして、飼い犬の登録率を向上させるよう努めた。

本部においては、獣医師賠償責任保険「狂犬病予防注射事業賠償契約」への加入をとりまとめ、支部による狂犬病予防定期集合注射事業の実施を補佐した。

また一方では、狂犬病予防注射離島対策事業として、東京都下島嶼に対してはヘリコプター等を使用し、会員獣医師を現地に派遣して狂犬病予防注射活動を実施した。

## 2-オ. 都民が飼育する犬に対する狂犬病抗体価調査；

厚生労働省の報告によると、犬の飼育者に義務づけられる狂犬病予防接種率は、平成27年度で71.8%であった。毎年接種されていない犬は抗体価が不十分であると予測され、社会全体の免疫の低下が危惧されることから、狂犬病予防接種歴が1回以上ありかつ調査の採血時に最後の狂犬病予防接種後1年以上経過している犬における抗体価を測定した。同時に当該犬の飼育者にアンケートを実施し接種に影響を与える要因等を調査した。

### 【狂犬病抗体価調査内容】

期 間 平成 28 年 11 月 1 日～11 月 30 日 測定数 35 検体

施 設 地域支部毎に 2～3 病院 測 定 松研薬品工業株式会社

目標数 60 検体 報 告 東獣ジャーナル、東獣 HP など

## **3. 災害時の動物救護支援に関する事業**

本会内には災害、人畜共通感染症発生時の初動活動に即時対応可能な危機管理室が設置されている。

各セクションでは非常時に備えて継続して次の対策事業を実施した。

### 3-ア. 危機管理・災害対策事業；

東京都との協定に基づき、災害時における被災動物の救護活動（保護、預かり、応急処置及び情報提供）を効果的且つ速やかに実施するために、本部及び、支部において、都、及び市区町村で開催する防災担当者会議等に積極的に参加し、ガイドラインやマニュアルの整備など、動物救護の仕組み作りの検討に協力した。

また平成28年度東京都総合防災訓練（葛飾区水元公園・9/4）に地元の葛飾支部・墨田支部とともに参加し、ブースにおける防災用品やパネル展示、印刷物の配布、マイクロチップ挿入のデモンストレーション等により都民に対して、動物を飼育する上での災害対策についての知識の普及啓発を行った。

更に有事を想定して、本会独自の安否確認システムにより平成28年9月1日及び平成28年3月11日の2回にわたって会員の安否確認訓練を実施した。

SNS安否確認訓練の結果は、9/1 正午に登録者580件に発報、回答があったのは364件、216件は未返信もしくは不達であった。

この安否確認メール未達対策のため毎月15日にテスト送信を実施し、問題解決を図った。

平成28年4月の熊本地震発生時には県外避難者同行動物の受け入れに対応するため、一時預かり可能な病院をリサーチし、災害支援体制を整えた。

また、6月には安否確認システムを、支部内の安否確認が行え、支部長またはブロック長が安否の確認が行えるシステムに変更し、新システムの活用のための研修会を11/29, 30の2日間、支部防災担当者を対象として開催した。

熊本地震に対する支援活動と、今後東京都で検討すべき課題の報告を兼ねた報告会を行った。(6/19)

災害対策の普及啓発ツールとして、「災害対策啓発パネル(熊本地震に学ぶ)」を制作し、地域支部に貸出した。

本会で平成13年に作成した緊急災害時動物救護ガイドライン(社団法人東京都獣医師会ガイドライン)については、災害マニュアル検討委員会にて見直しを行っていたが、平成28年4月に発生した熊本地震への対応を経て、更なる見直しの必要性が生じたことと、日本獣医師会において作成中の地方会向け災害対応ガイドラインとのすり合わせも必要であることから、平成29年度に継続することとした。

### 3-イ. 危機管理・感染症対策事業;

動物を介した新興感染症や人と動物の共通感染症の発生防止とまん延、拡大防止に役立つ情報を本会ウェブサイト公開し、公衆衛生の向上及び公共の福祉増進に寄与した。

- ・感染症対策マニュアル作成委員会を設置し(公社)東京都獣医師会犬の咬傷事故対応並びに狂犬病発症を疑った場合の対応マニュアルを作成し、ジャーナル(No. 578)に掲載して会員への周知を図った。
- ・平成29年2月に、都内(足立区)で確認された高病原性鳥インフルエンザの発生に伴い、会員病院及び都内学校に対し、鳥に関する対応の注意点等情報提供を行った。会員への周知に関しては、会員個人に直接速やかに届くよう、本会SNS情報伝達ツールを活用した。
- ・犬猫等における東洋眼虫の感染調査を実施した。本症は関西特に九州で多く報告されていたが、最近では東日本でも報告されるようになり、東京都内のイヌの感染例としては東京都動物愛護相談センター収容犬27頭のうち、2頭が陽性だったと報告されているが、これまで都内の飼育犬等における調査は行われていなかった。そこで、都内の飼育犬等における東洋眼虫の感染率を調査することとし、平成28年11月15日から平成29年1月15日までの期間、都内2病院で676頭の調査を行ったが、検出率は0だった。

#### 4. 獣医公衆衛生対策推進事業

##### 4 - ア. 動物由来感染症モニタリング事業

東京都の委託を受け、都内全域を対象に地理的な偏差が出ないように設定した会員の動物病院20施設において来院する動物から検査サンプルを採取し①皮膚糸状菌症、②疥癬症、③ノミ寄生、④回虫症、⑤ジアルジア症、⑥瓜実条虫症、⑦ブルセラ症、⑧トキソプラズマ症等、人と動物の共通感染症の疫学モニタリング調査を実施し定点観測を継続した。

また、都内会員の動物病院6施設の協力を得て、ネコひっかき病（128検体）とQ熱（87検体）について、来院した動物の飼い主に了解を得て検体を採取後、株式会社モノリスに検査を依頼しその罹患の有無を調べることによって、都民の健康を守るための人と動物の感染症の発生状況等の予察に協力した。

##### 4 - イ. 人と動物の共通感染症及び食の安全対策事業

所轄官庁から発信される人と動物の共通感染症及び食の安全対策に関わる公示・通達等を、本会ウェブサイト、東獣ジャーナルで広報した。

#### 5. 学校動物飼育対策推進事業

教育施設での動物飼育を通して、児童への情操教育や科学教育、および動物愛護精神の育成を支援した。

また人と動物の共通感染症に対する予防および啓発活動を通して当該事業が安全に実施されるよう努め、以下の事業を行った。

##### 5 - ア. 学校に対する学校飼育動物関連知識の普及啓発及び適正な飼育指導；

学校飼育動物が命あるものとして扱われ、児童とのふれあいを基本とする飼育活動の実現をめざして、学校飼育動物の適正な飼育方法等の指導活動を支部委託事業として都内全域において行った。

支部を通じて依頼のあった学校及び教育委員会に対し本会から講師を派遣した。講師派遣により、感染症対策や学校飼育動物の適正な飼育方法の指導、また児童や教員に対する講習会を開催することで学校飼育動物関連知識の普及啓発に努めた。また、学校動物飼育の支援等に寄与するため、地域支部において学校飼育動物の施療や飼育指導を実施し、また学校動物飼育に関わる支部担当者間の情報の交換と提供に努めた。

教育庁を通じ、都内での高病原性鳥インフルエンザ発生に伴う注意を配布した。

##### 5 - イ. 学校獣医師養成講座；

平成 28 年度は実施していない。

##### 5 - ウ. 動物飼育作文コンクール；

支部事業として児童の心と身体の健全な育成のために、動物飼育作文コンクールを行い、その優秀作品を表彰した。

日 時：平成 27 年 9 月 30 日（金）

テーマ：第 35 回動物愛護作文コンクール(品川支部主催)

内 容：応募点数 138

小学 5 年生 入選 10 点 佳作 10 点

小学 6 年生 入選 10 点 佳作 10 点

表彰者：40 名

本会役員出席：上野理事

#### 5-オ. 小学校動物飼育推進校事業（都委託事業）；

東京都教育庁の委託を受け、会員獣医師18名を動員し、都内5つのモデル小学校において①衛生管理指導、②体験活動事業、③研修会事業、④動物由来感染症発生時対応事業、⑤埋葬事業を実施した。

#### 5-カ. 学校飼育動物埋葬に関わる事業；

児童の健康と安全を守るため、学校飼育動物の死亡に際して担当動物病院での死因検案を行うとともに死因データ等を収集して教育委員会に提供した。

一般社団法人東京都獣医師会霊園協会との間で締結した「学校飼育動物の埋葬に関わる協定」に基づき、368件の死亡動物の適切な埋葬を支援した。

以上のことにより学校飼育動物の死亡に際し児童の心身の安全を確保し、学校並びに児童の「命を悼む心情」の醸成に努めた。

### **6. 動物愛護啓発事業**

#### 6-ア. 催事における啓発事業；

公益社団法人東京都獣医師会世田谷支部と世田谷区が主催した「世田谷動物フェスティバル」（平成 28 年 11 月 6 日(日)）にブース出展し、災害時の動物救援、同行避難活動事業などについてパネル展示やパンフレットの配布を行った。

尚、昨年度から開始した「動物のいのち救済基金」における高齢者の動物飼育に対する支援事業として、「あなたとペット・合わせて何歳ですか？」と題し、飼い主とペットの年齢が合わせて 80 歳以上になられる方を対象に、3,000 円分の特別診療券を世田谷動物フェスティバル会場で 14 人に、杉並支部主催事業「高齢動物表彰(平成 28 年 12 月実施)」において対象者 42 名中 31 名に配布した（24 枚使用）。

「第 2 回世田谷フラフェスティバル」の開催に合わせ、平成 29 年 1 月 21 日(土)、1 月 22 日(日)の両日、本会主催の「動物のいのちの絆」をテーマとしたブースイベントを区民会館中庭において実施し、世田谷支部会員、共生社会構築委員会委員、賛助会員他の協力を得て、動物愛護事業「いのちの救済基金」の募金活動等を行った。募金総額は 1,148,296 円となった。

平成 28 年度『動物のいのち救済基金』募金総額は 1,646,139 円（総計 104 件）となった。

また、日本獣医師会が主催する 2016 動物感謝デー11/12（西日本総合展示場 B, C ホール・あさの汐風公園）に参加し、小笠原自然環境保護活動に関連する啓発活動を

実施した。

共生社会構築委員会は、2020年の東京オリンピック・パラリンピックにおいて、「H A T T構想」の参加実現に向けての検討を行った。

『動物のいのち救済基金』の活動の一つ「災害対策事業」として、ペット防災BOOKの制作を行った。都議会自民党動物医療政策研究会主催の勉強会に参加、熊本地震の動物救護の状況を報告するとともに、東京都での発災に際しての課題提供を行った。10/21（都議会自民党会議室）

#### 6-イ. ネコの不妊去勢手術及び助成に関わる事業：

動物の適正飼養の推進を図るため、それぞれ支部地域において市区町村の助成を受けて、不妊去勢手術を実施した。また本部事業として、御蔵島ノネコ対策の一環で、御蔵島村からの助成を受け、村で捕獲し会員動物病院に搬送されたノネコの馴化、健康管理を行った上、希望する一般家庭へ譲渡する事業を開始した。（平成28年度保護頭数14頭）

#### **7. 医療廃棄物等適正処理活動事業：**

獣医療に伴って排出される医療廃棄物の適正処置と安全な取り扱いについて、東京都医師会が主催する「医療廃棄物処理研修会：平成28年3月26日都庁都民ホール」開催等の情報提供や知識の普及啓発を行った。また、不正処理により摘発された業者に関する情報を、逐次、本会ホームページや東獣ジャーナルに掲載して動物診療施設を管理する獣医師に対し、適切な情報の提供に努めた。

#### **8. 身体障がい者支援活動事業：**

東京都福祉保健局と協力して身体障がい者を支援する目的で、動物診療施設等の協力を得て「ひかりの箱」募金活動を推進した。

東京都福祉保健局を介し、身体障がい者補助犬使用者に対し、補助犬無料診察券配布を行い、補助犬の健康管理等の診察支援を行った。平成28年度（3/31現在）では、約207万円の募金額を収集し、身体障がい者補助犬1頭3万円の診療券130頭分を交付した。

また、利用者の利便性に配慮し、平成29年度からは診療券の有効期限を2月末から3月末に延長して、使用期間を4月1日～3月31日の1年間とすることとし、3月に東京都福祉保健局への寄贈を介して身体障がい者補助犬使用者に配布した。

#### **9. 夜間診療活動及びマネジメント事業：**

本会会員病院の協力を得て、夜間診療提供体制（ネットワーク）事業を継続して実施した。本事業は、登録している会員動物病院と夜間診療専門病院の参加で毎晩の当番制を実施している、本会ホームページやポスター等を閲覧した飼育者が、電話連絡することによって当夜の当番病院を把握し、受診することで恒常的な夜間診療を提供できるよう、マネジメントを提供する仕組みで、組織として夜間診療活動を継続して実施することによって、動物福祉、適正飼育、感染症対策、公衆衛生の向上等、人と動物のより良い共生社会の構築に寄与した。



## 10. 小笠原自然環境保護活動事業：

小笠原諸島は、現地に生息する希少野生鳥獣の保護と自然環境を守るために、ノネコ保護、獣医師派遣事業等を行ってきた。本事業の保護対象動物であるアカガシラカラスバトは40羽だった生息数が少なくとも400羽を超え、順調にその個体数を回復し、一時壊滅したカツオドリの営巣地でも平成26及び28年度においては巣立ちが確認され、地道な取り組みが功を奏していることが確認された。また、平成20年から始まった活動として、本会から獣医師を派遣し、母島、父島において動物の診療活動等を実施した。

### 10-ア. 保護されたノネコの保護活動事業：

小笠原村、東京都、環境省等と協力し、小笠原諸島固有のアカガシラカラスバトやオガサワラオオコウモリ等希少在来種、繁殖地の保護を目的に、地元で捕獲されたノネコを会員動物病院で引き取り、馴化、健康管理の後、希望する一般家庭へ譲渡する活動を継続して実施した(今年度小笠原81匹)。

新規受け入れ病院を確保するため、小笠原自然保護官事務所からの小笠原ネコプロジェクトに関するメーリングリスト加入依頼に協力した。

### 10-イ. 小笠原諸島現地診療活動事業：

本会会員で構成する動物医療派遣団を現地に派遣し、飼育動物の適正飼養啓発と不適切な繁殖の防止を図るための活動を実施した。

平成28年度における派遣は、平成28年11月23日～12月4日にかけて実施し、獣医師6名、担当理事1名を現地に派遣した。また、飼いネコを対象とし、マイクロチップの装着、血液検査、寄生虫検査、健康診断、等、小動物診療活動を実施した。

さらには、島での動物適正飼養の観点から、犬の飼い主、ネコの飼い主向けに飼育・健康相談、室内飼養の普及推進、また小中学生を対象とした次世代育成事業として「自然と共生した島の暮らしの実現」をテーマに講義と実習を各学校でおこなった。

#### 【平成28年度診療実績】

母島：ネコ 3	イヌ 10	合計 13
父島：ネコ 43	イヌ 38	合計 81

本事業は、小笠原世界遺産センター開設に伴い設置される診療所に、獣医師（本会会員）が採用され、常駐することにより、平成28年度をもって終了する。

### 10-ウ. シンポジウム・講演会等による自然環境保護の啓発事業：

小笠原自然遺産の保護・保全に関する知識の普及啓発活動として、東獣ジャーナル、ホームページ、ポスター等の広報活動を通じて、恒久的な自然環境保護への理解向上に努めた。小笠原諸島世界自然遺産地域登録5周年記念シンポジウム開催に際しては、本事業における本会の取り組みについての講演の機会を得て、講師を派遣した。

主 催：小笠原諸島世界自然遺産地域管理機関（環境省関東地方環境事務所、  
林野庁関東森林管理局、東京都、小笠原村）  
日 時：平成 28 年 6 月 26 日（日）13:30～17:30  
小笠原諸島世界自然遺産地域登録 5 周年記念シンポジウム  
場 所：東京都議会議事堂 都民ホール  
講 師：中川清志（理事）

#### 11. 傷病野生鳥獣保護活動事業：

東京都の委託を受け、都民によって持ち込まれた傷病野生鳥獣を救護、施療活動を実施し、当該治療費を支援する「傷病野生鳥獣保護活動事業」を実施した。

これらの件数は 278 件であった。

一方、委託対象にはなっていないドバト、カラス等 100 件については動物の命の大切さから、保護、治療に対し、本会から助成した。

また、当該傷病野生鳥獣の罹患する疾病のデータを蓄積し、当該データを東京都等に提供することによって、今後の感染症対策に繋がるよう継続して資料収集に努めた。

#### 12. 学会・講習会活動事業

獣医師は、日進月歩する専門技術と知識の研鑽を払い、常に適切なる獣医療の提供に努めていかなければならないことから、次の学会、講習会、研究検討活動等を実施した。本年度は、獣医師育成対策事業（都委託）において獣医師法、獣医療法、家畜伝染病予防法、薬事法、人獣共通感染症、小動物獣医療に関わる臨床獣医師の資質向上、獣医療トラブルの未然防止と適切な獣医療の提供、臨床現場における危機管理対応能力の向上等を目的とした講習会を行った。獣医公衆衛生学術講習会（都補助）においては、「狂犬病発生時対応ワークショップ」を開催した。（４）、（５）の講習会については、東獣 16 ‘イヤーズカンファレンスと題して、同時開催の形式をとった。

- (1) 三学会活動；関東・東京地区合同獣医師会大会・学会活動を通じて、技術と知識の研鑽に努めた。
- (2) 学術国際交流活動；加盟したアジア小動物獣医師会（FASAVA）会議、および学術交流活動に積極的に参加した。
- (3) 日本獣医師会による講習会；日本獣医師会と連携し、小動物又は獣医公衆衛生分野に関する学術講習会を開催し、知識と技術の研鑽に努めた。
- (4) 東京都委託事業による講習会；東京都委託の獣医師育成対策の一環とし、講習会を開催した。

日 時：平成 28 年 10 月 10 日（月・祝日）15:15～16:45 <90 分>

テーマ：「獣医師さんが知っておきたい法律問題」

講 師：フラクタル法律事務所 弁護士 田村勇人（たむら はやと）  
弁護士 堀井亜生（ほりい あおい）

参加者：都内小動物診療施設の臨床獣医師、動物看護師及び一般動物の飼育者等関係者 43 名

(5) 東京都補助事業による講習会；

講習会名：獣医公衆衛生学術講習会

日 時：平成28年10月10日（月）15:15～16:45

会 場：都市センターホテル

テーマ：「狂犬病発生時対応ワークショップ」

参加人数：82名

(6) 学術情報提供；

都委託獣医師育成事業による講習会及び獣医公衆衛生学術講習会の映像資料等を制作し、獣医師限定のサイト上に公開した。

(7) 支部学術講習会；支部が実施する学術講習会をもって、継続した生涯教育の充実と地域学術振興の活性化に努めていくこととした。

平成28年度実績は以下の通りである。※日獣生涯研修申請分

- ・三支部（練馬・板橋・豊島）メリアルジャパン合同学術講習会「ACE阻害剤（ACEI）を見直す」10/2
- ・北多摩支部講習会「臨床病理」11/1、H29 1/18
- ・品川・大田・東京中央支部合同学術講習会「一般臨床における白内障・緑内障」11/13
- ・世田谷支部「難抜歯に対する治療のコツ」H29 2/7

### 13. 広報活動事業：

本会活動の透明性を図るために、本会の事業全般に関わる包括的情報を広く一般都民及び獣医師に広報し、都民及び獣医師がこれら情報の内容を十分に享受できるよう、次の広報活動に努めた。

(1) 東獣ホームページの充実：関心の高い獣医事に関する諸情勢、学術調査の結果並びに研究成果、動物の疾病、治療並びに必要な保健衛生指導等、都民や動物の飼育者に対して必要な情報等を本会ホームページ、ポータルサイト等に掲載するなどして、ウェブサイトの開示、構築を図った。

(2) 機関紙（東獣ジャーナル）の発行：公益目的事業の活動報告、獣医事関連法規、獣医事に関する諸情勢、学術研究の調査結果等の必要な情報の収集と開示に努め、獣医師の専門知識研鑽に寄与するため、東獣ジャーナルの年5回の刊行と掲載情報の充実に努めた。

東京都委託事業、補助事業や本会委員会における成果物など学術情報を掲載して、知識の啓発に努めた。

また、時流に即した特集を企画したり、デザインを大幅に変更するなどし、より読みやすい誌面とするように図った。

### 14. 家畜衛生防疫対策事業

#### 14-ア. 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（農水省補助）：

都内の畜産農家において、牛海綿状脳症（BSE）が疑われる牛が死亡した際に、検査後の死亡牛が、発生場所から化製場まで輸送される間の適切な管理と処理に係る費用の

助成等を農水省の補助を受けて行い、良好な家畜衛生及び安全な畜産生産の維持に協力した。対象月齢が平成 27 年度から 48 か月齢以上と変更されたことから、対象頭数が減り平成 28 年度実績は 40 頭となった。（食の安全・消費者の信頼確保対策事業）

14-イ. 家畜生産農場清浄化支援対策事業（農水省補助）：

農林水産省の補助による「家畜生産農場清浄化支援対策事業」を受けて、迅速診断法を活用し、移動予定牛や清浄化促進農場等の重点的な検査等を推進した。牛アカバネ病のワクチン接種を計画的、組織的に実施した。また、牛ヨーネ病の疾病の清浄化と家畜防疫対策実施基盤を強化し、畜産の安定的発展向上に努めた。平成 27 年度に引き続き、本年度も豚オーエスキーの発症はなかった。アカバネ病ワクチン接種補助の実績は 680 頭となった。（食の安全・消費者の信頼確保対策事業）

14-ウ. 東京都家畜衛生対策事業（東京都補助）：

東京都の補助により、牛アカバネ病、牛イバラキ病、牛 6 種混合ワクチン接種料一部助成し、また、牛ウイルス性下痢・粘膜病の清浄化と家畜防疫対策の強化に貢献した。本年度は牛ウイルス性下痢・粘膜病の発生はなく淘汰は 0 となった。アカバネ・イバラキ・6 種混合ワクチン接種補助実績は、アカバネ：680 頭、イバラキ：732 頭、6 種混合：832 頭となった。

14-エ. 家畜防疫互助基金造成等支援事業（独立行政法人農畜産業振興機構補助）：

独立行政法人農畜産業振興機構の補助「家畜防疫互助基金造成等支援事業」を受けて、海外悪性伝染病（牛疫、口蹄疫、牛肺疫、豚コレラ、アフリカ豚コレラ、高病原性鳥インフルエンザ等）が発生した場合、これらの伝染病がまん延することを防止することを目的とし、淘汰による畜産農家の経済的損失を補償するための互助制度について、畜産農家に対し本基金の趣旨や事業内容等の周知徹底に努め、本基金への加入促進に努めた。平成 27 年度～平成 28 年度実績：酪農牛農家数 31 軒、肉牛 5 軒、豚 5 軒

14-オ. 馬飼養衛生管理特別対策事業：

公益社団法人中央畜産会の委託を受けて、馬の飼養衛生管理体制の総合的整備を図り、公衆衛生の向上に資するため、競走馬以外の地域馬（乗馬クラブ等）の獣医療の実態調査を行った。

その調査結果を活用して講習会を実施するなどして、獣医師向けにウエストナイル感染症、馬インフルエンザ等の情報提供と普及啓発に努めた。

H28 馬飼養管理技術地方講習会

期日：平成 28 年 9 月 27 日(参加者 48 名)

演題：「馬の運動器疾患の検査法」

講師：石原 章和（麻布大学獣医学部 外科学第二研修室）

場所：大井競馬場 競馬事務所事務棟第一会議室

アンケート集計（16 件中 13 件）

#### 14-カ. 馬インフルエンザ等自衛防疫推進事業：

都内に対象となる馬が存在するか調査を行ない、平成28年度は32頭を確認しワクチン接種を行った。

#### 14-キ. 家畜自衛防疫推進事業：

在来馬等馬伝染性貧血清浄化推進事業として、馬伝染性貧血の定期検査の対象となっていない在来馬の飼育実態調査を実施した。

また、地域自衛防疫強化特別対策事業として以下の講習会を開催した。

①第1回自衛防疫講習会 10月10日開催（参加者16名）

演題：「地域伝染病対策と発生時の対応」と

「防疫要員の保護具着脱訓練（体験実習）」

講師：桑山 隆実（東京都家畜保健衛生所防疫係）

場所：都市センターホテル

②第2回自衛防疫講習会 2月15日（参加者11名）

演題：「小規模飼育環境における

鳥インフルエンザ予防と発生時の対応」

講師：中村 博（東京都家畜保健衛生所）

場所：立川ホール 第5会議室

③飼養衛生基準に関する講習会 11月21日開催（参加者5名）

演題：「もうちょっと！バイオセキュリティ

- 鳥インフルエンザを絶ち、農場 HACCP で食の安全へ -」

講師：三宅 眞佐男（アニマル・バイオセキュリティ・コンサルティング株式会社）

場所：八王子労政会館

#### 15. 医療事故防止セミナー開催事業

都の委託を受けて獣医師を対象に獣医療事故及び獣医療過誤の防止を図るための獣医療倫理の啓発、獣医療事故に関する講習会を開催した。

平成28年度においては、訴訟対策、法規等に関する内容を中心に、獣医師及び獣医療従事者の事件を幅広く取り扱う弁護士を講師に招き、トラブル防止策、及び対処法を学ぶ企画とした。

《都委託事業 平成28年度小動物獣医療向上対策講習会》

日時：平成28年10月10日（月・祝日）15:15～16:45 <90分>

テーマ：「獣医師さんが知っておきたい法律問題」

講師：フラクタル法律事務所 弁護士 田村勇人（たむら はやと）

弁護士 堀井亜生（ほりい あおい）

参加者：都内小動物診療施設の臨床獣医師、動物看護師及び一般動物の飼育者等関係者43名

また当日の講習内容をVTRにまとめ、本会HP上で公開して広く普及啓発を行った。

## II. 収益事業及びその他の事業

### (1) 不動産の貸し付けに関する事項

本会は、本会の組織基盤を充実させ、適切なる本会事業を推進していくため、不動産の貸し付け事業を実施し、経済的基盤の充実に努めた。

### (2) 福利厚生事業

「福利厚生事業要綱」により家族調査を実施し、加入獣医師及びその家族を対象として、次のとおり給付事業を行った。

- 1) 共済給付 ①弔慰金 21件 ②傷病見舞金 16名 46回 ③災害見舞金 0件
- 2) 旅行保険の加入 4件
- 3) 無受給退会者への記念品贈呈 8件

### (3) 加入促進（組織率向上対策）

獣医師が担う獣医療提供の質が全体的に高位に確保できるよう、関係大学獣医学科に就学する学生、新規免許を取得した獣医師、まだ会員として所属しない開業獣医師（非会員）等に対して積極的に入会促進を図り、組織率の向上に努め、新規入会した会員に対しては総会において紹介し、所属会員の章（会員プレート）を配布して、法の遵守と適切な広告のあり方、獣医療倫理、適切な獣医療の提供とカルテの記述、獣医療過誤とインフォームドコンセントの徹底等を周知し、社会に対して公益性を担保した獣医業の恒久的な提供に努めた。また、本会の活動を分かり易く紹介するリーフレット「動物と共に歩んで…東京都獣医師会のご案内」を、関係各所に配布し、入会を促進した。

本会から所属会員に対し有益な情報をタイムリーに発信するツールとして、東獣会員専用ポータルサイトを活用し、基本サービスは無料で提供した。

### (4) その他、予防接種証明書等販売事業

適切な獣医療の提供を図るため、犬及び猫の各種ワクチンを網羅した予防接種証明書を印刷作成し頒布した。

また、会員病院の名入れカレンダーを受注、販売した。

### (5) 事務委託事業

会員の福利厚生に資することを目的に、保険加入等の斡旋業務等を行った。

### (6) 会員名簿の発行

会員名簿を発行し、会員に配布した。また、名簿に掲載する広告による収入を得た。